

## はじめに　　～歌謡曲といつまでも～

みなさん、はじめまして！

わたしは今、歌って踊れるカウンセラーを目指している51歳。

特技は、1970年代から80年代に日本でヒットした曲ならほぼ口ずさむことができることで、典型的な昭和の「歌謡曲ファン」です。

「歌謡曲」の全盛期といわれる、1978～1984年。

テレビのどのチャンネルをひねっても、「ベストテン・トップテン・夜ヒット」といった歌番組を見ることができた、わたしにとっては本当に至福な時間でした。

当時、わたしは8～14歳。

歌番組で初登場の曲（マッチ（近藤真彦）や聖子ちゃん（松田聖子））を覚えては、翌日、小学校で仲の良かった梶原君と「どっちが覚えているか」を競い合うのが楽しみでしたが、テレビは一家に1台で、ビデオはまだまだ庶民には高価な時代。勝負に勝つにはどれだけテレビの前で集中して、メロディと歌詞を覚えるかにかかっていました。

幸運だったのは、テレビのチャンネル権をほぼ独占できていたこと。

それは、母親とチャンネルの趣味が同じで、弟が6つ離れた赤ちゃん、さらにモーレッツサラリーマンの父親の帰りが毎晩11時だったことが理由でした。

おかげで、そのときの集中力と若い記憶力とも合わさって、あのころの曲は今も譜まきんじることのできるほど、テレビの映像と一緒に脳裏に焼きついています。

そして時が経ち、いい大人になって歌謡曲を聴いてみると――、

子どものころは意味がわからず、興味を持たなかった聖子ちゃんやマツチ以外にも男女の機微きびや人生の奥深さを歌った名曲がたくさんあることに気づかされます。

もちろん、現いま在まのシンガーソングライターもいい歌をたくさん作っています。

それでもあの時代、プロの作詞家や作曲家が、その時代に生きる人々の空気を読んで作られていた歌には、味わいが深く現在に通じるものが、たくさんあると思うのです。

そうなんです！ 歌謡曲では、「ヒットメーカー」と呼ばれる作詞家たちによって、恋をはじめとする人生の喜びや悲しみなど、当時の日本人の心が巧みに表現されています。

そして、これは本でもブームになっている「心理学」と重なる部分も多く、とても相性がいいと確信しています。

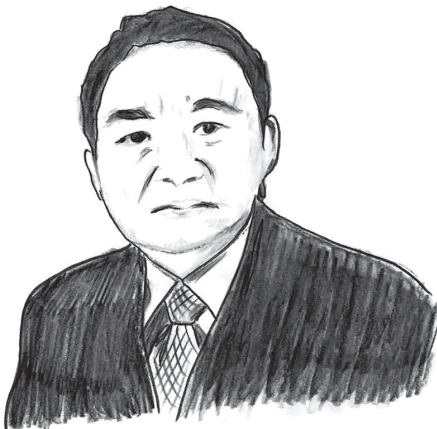
わたしは今、衛藤信之先生という方のもとで心理学を学んでいます。

衛藤先生は、日本でもトップクラスの講演数と企業顧問数を誇る心理カウンセラーで、九州の福岡をはじめ、全国で開催されている心理学教室は、どこもキャンセル待ちといった、全国を飛び回る売れっ子カウンセラー。

情熱的かつ繊細な語り口で注目を集め、笑いも涙の中にもしつかりと学べる、その画期的な心理学は「吉本風心理学」とも呼ばれています。

後で詳しく説明しますが、その衛藤先生から教えてもらった「心理学」に、大好きな「歌謡曲」をミックスさせて何か伝えることができなにかと思っただのが、この本を書くきっかけです。

本書の内容は1970年から80年に「青春時代」を過ごした人向けになっていますが、<sup>いま</sup>現在の時代の若者にも共感してもらえよう書いていますので、「歌謡曲なんて知らないよ」という人も「だま



されたと思って（笑）“ページを進めてみてください。

また、この本で取り上げています曲について、諸事情から歌詞の掲載ができておりません。これについては、曲紹介の後にくる（ブログ記事へ）というQRコードを読み込んでいただければ、歌詞と動画を載せたわたしのブログに飛んでいきますので、この本と合わせ技で楽しんでいただけたらうれしい限りです。